

エンジェワーク スマホ向け3Dアプリツール

CAD業界のIoT化促進に貢献

ソフトウェア開発を手掛けるANGEWORK（エンジェワーク、東京都千代田区）は、スマートフォン向け3Dアプリ開発ツールのUnityで、三次元形状を表現するデータを保存するファイルフォーマット「STL」を表示可能にするプラグイン（ソフトに機能を追加するプログラム）「ランタイム エステイエル ローダ」の提供を開始した。

Unityはスマホ向け3Dアプリ開発で定番の開発環境だが、STLデータのインポートや表示機能はサポートしていない。提供を始めたプラグインを適用するとSTLデータを読み込み表示でき、CADや3Dプリンターとの親和性が増す。さらに今回の最新バージョンではカラー情報付STLデータの表示も可能にした。

3Dスキャナーでデータ化し

たフィギュアや医療用データをスマホやタブレットで扱えるようになるため、3DプリンターやCAD業界のIoT化促進に大きく貢献することが期待される。このプラグインは世界中で使用されており、日本では歯型の3Dデータをクラウド医療行為に利用する歯型管理アプリ「mary（3D！社）」のエンジンとして歯科クリニックに導入されている。

今後はSTLのデータ量を減らすリダクション機能の追加やSTLデータのスムージング化を目指す。